



TITLE:

バレル記念天文臺

AUTHOR(S):

CITATION:

バレル記念天文臺. 天界 1941, 21(245): 335-335

ISSUE DATE:

1941-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168284>

RIGHT:

るとすれば、こんな黄道光は、吾々の観てゐる事實以上に明るくなる筈だといふ事が間もなく判明しました。其後此の問題は未解決の儘でしたが、1915年になつて、アインシュタインが、周知のニュートンの引力に多少の修正を施した相対原理に依つて、豫言した水星の近日點の前進運動の割合は、毎世紀43秒角以内といふ實際の観測値に合致することが譯りました。斯うした理論と観測の一致は極めて厳正なもので、ラセル氏の言を借用すれば、“場を守るもの”と表現出来るのです。斯くて、水星の運動の特殊性が相対原理に與へる擁護は、水星が吾人の興味と注意に値すべきであるといふ要求の最少のものではないのです。

(A. S. P. Leaflet 65—佐登兒譯)

バレル記念天文臺

米國オハヨ州ベリヤ Berea 町にあるボルトキン・ワレリス大學 Baldwin-Wallace College では昨年 1940 年六月 17 日に天文臺の建設披露式が挙げられた。之れは永く(37年間も)クリイヴランド市のワリーナ・スエージ製作所 Warner-Swaseg Co. で働いてゐたバレル博士 Dr. Edward P. Burrell の紀念のために其の未亡人 Katherine Ward B. 夫人が同大學に寄附したもので、主要器械はワリーナ・スエージ会社の製作にかゝる口径13吋半(34センチ)の屈折望遠鏡である。——故バレル博士はワ製作所に勤務中、カナダのキングトリヤ天文臺の72吋反射鏡(183糎)や米國テキサス州のマクドナルド天文臺の82吋(210糎)反射鏡等の設計と製作の主任であつた人である。

此の天文臺は、大學々生の教育と、一般民衆への開放と、彗星及小遊星の特殊研究と、この三つの目的を遂行するものと思はれ、臺長は、ダストハイマ O. L. Dustheimer 博士が就任した。

人 事 消 息

シヴルツシルド氏 前の歐洲大戰に於いて西部戦線の氣象観測を統監してゐたポツダム天文臺長 K. Schwarzschild 博士は近世ドイツ天文學界の鬼才であつたが、1916年に惜しくも戦歿した。この博士の遺子マルテン・シヴルツシルド Martin Schwarzschild 氏は1937年以來渡米して、ハーバード大學天文臺で研究中であつたが、昨1940年末、ニュヨーク市のコロンビヤ大學に講師として招聘されて赴任した。このシヴルツシルド第2世は1937年八月、ペル1の日蝕観測からの歸途、山本堀井柴田三氏がハーバード大學へ立ち寄つた際、ホイブル氏に招かれて、ボストン市の日本料理店ですきやきをついた仲間の一人である。